



## 『小さき者へ』の世界

有島武郎夫人終焉の地、平塚

有島武郎は、明治11年(1878)3月4日、東京市小石川区水道町52番地(現 文京区水道1-12-7)にて武、幸子夫妻の長男として誕生。父・武は、薩摩国平佐郷(現鹿児島県川内市)の出身で、島津氏の一支族北郷氏の家臣であった。明治維新後、大蔵省に出仕し関税局・横浜税関長などを勤めたが、明治26年(1893)時の大蔵大臣・渡辺国武と衝突し、国債局長を最後に退官し、その後、第十五国立銀行世話役、日本郵船監査役、日本鉄道会社専務などに就任し、実業界に転進した。一方、母・幸子は、南部藩江戸表留守居役・加島英邦の三女として誕生したが、4歳の時父を失い娘時代から、つらい境遇のなかで苦勞を重ねてきた。そして、明治10年5月に有島武と結婚した。



39歳の武郎

武郎は、明治14年(1881)湯島3丁目の東京女子師範学校附属幼稚園に通うが、虚弱体質で病気がちであった。

明治15年(1882)6月16日武が、関税局長心得兼横浜税関長となり、一家は、横浜の月岡町(現 西区老松町)の税関長官舎に移り、以後5年間横浜で暮らした武郎は、父の意向でアメリカ人牧師ギュリックより英語を学び、さらに明治17年山手居留地120番にあったミッション・スクール横浜英和学校(現 成美学園)に入学し、この学校で『一房の葡萄』に語られる同級生の絵具を盗み、若い女教師からさとされたという事実を体験した。

明治20年(1887)横浜英和学校を退学し、学習院予備科第3年級に編入学し寄宿舎に入った。このころから、「少国民」「少年文学」などの雑誌をはじめ文学書を耽読した。翌年、品行方正および成績優秀のため、皇太子明宮嘉仁親王(後の大正天皇)の御学友の一人に選ばれ、毎週土曜日吹上御殿に伺候することになる。また、将来は文学方面に進みたいと希望していたが、両親の反対を予想して農業に関心を持つようになった。明治23年(1890)9月学習院中等科へ進み、絵画、文学、歴史に関心を持ち『慶長武士』(筆名・由井ヶ浜兵六)『此狐墳』『斬魔剣』(筆名・劉隼生)等を習作し、明治29年(1896)7月卒業した。

学習院中等科卒業後、武郎の針路は意外にも札幌農学校であった。明治29年9月札幌農学校予科5年級に編入学し、新渡戸稲造教授の官舎に寄寓することになった。明治30年(1897)9月本科へ進み、11月父が武郎の将来にそなえて狩太(現 二セコ町)に農場用地を取得した。明治32年(1899)学友・森本厚吉(1877~1950 後に北海道帝国大学教授となる。経済学者)と定山溪へ行き共に自殺をはかるが、二人は思いとどまり森本のすすめでキリスト教に入信する。しかし、両親は大反対。明治33年(1900)狩太農場の入植はじまる。明治34年(1901)3月札幌独立教会に正式入会。3月29日森本との共著『リビングストーン伝』(警醒社)を刊行。7月本科卒業。卒業論文は「鎌倉幕府初代の農政」。

新渡戸稲造に勧められ、米国ペンシルベニア州のフィラデルフィア郊外にあるハバーフォード大学大学院に入学することになり、明治36年(1903)8月25日森本厚吉と共に横浜港を出帆する(森本はジョン・ホプキンズ大学大学院)。大学院では日本文明史序論を研究テーマとし、英国史、中世史、経済学(労働問題)、ドイツ語の4科目を聴講した。級友アーサー・クロウエルの妹フランセ

ス(13歳)を知る。明治37年(1904)日露戦争におけるキリスト教徒の偽善的行為をみて、キリスト教から離れるようになる。6月10日修士論文「日本文明の発展 神話時代から徳川幕府の滅亡まで」(英文)を提出し、文学修士の学位を取得し卒業。9月ハーバード大学大学院へ進学し、ヨーロッパ史、美術史、労働問題、宗教史の4科目を聴講したが、講義には興味を失いつルゲーネフ、エマーソン、プランデスなどの作品を耽読した。また、金子喜一(社会主義運動家)と交際する。明治38年(1905)1月金子の紹介でアメリカ人弁護士ピーボディの許に寄宿する。このことからホイットマンの詩に傾倒していく。6月ハーバード大学の聴講をやめ、ワシントンの国会付属図書館でトルストイ、イブセン、クロポトキン、ツルゲーネフ、ゴーリキなどの作品を耽読した。しかし、今後農業に従事するのか教育者となるのか、または、文学の道へ進むのかは依然決心できなかった。明治39年(1906)9月ニューヨーク港から出帆し、途中イタリアのナポリで弟の生馬と再会し、ヨーロッパ各地を旅行し翌年4月帰国。

明治40年(1907)札幌農学校が東北帝国大学農科大学となり、武郎より早く帰国した森本は、予科教授となっていた。武郎は、12月5日同大学英語講師に任ぜられる。明治41年(1908)1月札幌に着き森本厚吉方に寄寓する。3月狩太の農場成墾し武郎名義となる。6月4日予科教授となる。9月1日激しい雨の日に東京・日比谷の松本楼で陸軍中将・神尾光臣の次女安子(明治22年6月17日東京市本郷区にて誕生。同39年東京女学館を卒業し、同館専修科へ入学したが、在学中の同42年3月武郎と結婚)と見合いをし、安子の清純な愛らしさが印象に残る。9月2日神尾一家は、塩原へ発つ。9月3日両親と共に塩原へ行き6日まで滞在し、安子に好意を持つ。11日結納。12日神尾家に招かれて盃と指輪を取り交わす。14日安子と共に新渡戸稲造を訪ねる。15日東京を発つ。10月10日札幌市北2条東3丁目9番地に移る。明治42年(1909)3月下旬東京で神尾安子と結婚(戸籍簿写では「神尾安子婚姻届明治四拾貳年四月拾貳日受付」)。妻・安子は、温順貞淑な女性であったが、結婚してみるとキリスト教徒である武郎は、性と信仰の問題で苦しみ後に教会を退会することになる。

明治43年(1910)4月1日雑誌「白樺」が創刊され、有島生馬、里見弴と共に同人参加し、シェンキウィッチ作『正方古伝』(翻訳)を発表した。5月結婚生活から生じた棄教を決意し、札幌独立キリスト教会を退会する。5月「白樺」に評論『二つの道』、7月戯曲『老船長の幻覚』、8月『もう一度「二つの道」に就いて』、10月小説『かんかん虫』、11月『叛逆者(ロダンに関する考察)』をそれぞれ発表。また、8月札幌市外上白石村2番地(現 札幌市白石区菊水1-1)に転居。明治44年(1911)1月13日長男・行光誕生(後の俳優・森雅之)。1月「白樺」に『或る女のグリンプス』(大正2年3月まで16回)、4月『「お目出たき人」を読み』を発表。明治45年(1912)7月17日次男・敏行誕生。7月30日明治天皇崩御。大正と改元。大正2年(1913)7月「白樺」に『草の葉(ホイットマンに関する考察)』を発表。8月10日札幌市北12条西3丁目に西欧風の家を新築し転居する。12月23日三男・行三誕生。三児を得て有島家は、にぎやかになった。しかし、この幸せな家庭生活は、まもなく終わろうとしていた。

大正3年(1914)1月『お末の死』、4月『An Incident』、8月『幻想』を「白樺」に発表。4月4日狩太の隣接地を買収し第二農場とし、有島農場は444町歩(約440ヘクタール)となる。9月下旬安子は、発熱して病臥。診断は気管支炎。9月27日有島生馬夫妻宛書簡には、  
「...家庭にありて妻の病む程かなしき事は無御座候。兩三日前より安子も氣管支炎にて發熱今に臥床致居候が、三人の幼兒には實に閉口、日頃の彼女の苦勞が始めて思ひ當られ申候。安子の病氣は然し御心配下され候程のものには無之存られ候間何卒御放念被下度候。...」

とあり、また同日の河野象子(新渡戸稲造の姉)宛書簡にも

「...妻儀兩三日前から三十九度以上に上り氣管支炎の由に候得共さしたる心配は無御座候得共幼少なる子供三人有之候事とて其世話に閉口致居候。...」

とある。10月4日安子は札幌市立病院へ入院。11月24日医師より安子のために転地を勧められ「行李を修め兒輩を伴ふて」帰京。11月28日安子を鎌倉に転地させる。当時結核は不治の病と恐れられ、安子の病氣は、この結核であった。大正4年(1915)正月安子は、病氣の真相を知らされる。1月13日木村徳蔵(札幌農学校時代の武郎の同級生。後に神戸女学院で教鞭をとる。)宛書簡には

「...病勢はさして進みたる様子には無之候得共さして衰へたる氣配も見えず、唯幸に本人の氣象至て健氣にして病勢に打勝つ決心強きものあるは聊か人意を強う致居候。おすゝめ下され候精神療法并に肺治療法の新法を傳へたる書籍は早速購読、本人の望によって相

「試み可申候。…」

とある。

同年2月上旬安子は、杏雲堂平塚分院に入院するが、この時安子は、全快しない限り死ぬともわが子には会わぬという悲愴なる覚悟を決める。入院後の経過は、幸いにも良かった。そこで、3月1日夜武郎は、残務整理のため札幌へ向かい、24日に農科大学へ辞表を提出し、31日に帰京の途につく。4月2日武郎は、安子を見舞うが、出発前に比べて稍やつれた妻を見る。一方武郎は浪人の身となり、本格的に文学の道へ進みたかったが、妻の看病と三人の子供達の世話に忙殺される。6月13日安子を見舞うがここで病状悪化を知る。このため、当時古賀玄三郎博士によって開発された注射液「チアノクプロール」を7月15日に初めて試みた結果、安子は大分回復したように見えた。そこで、9月8日武郎は、鎌倉海岸の住まいを引き上げて東京麹町の両親のもとに転居する。しかし、12月29日安子から武郎に宛た手紙に「来年正月末には屹度死ぬから」と書いてよこし、武郎は大変驚く。



武郎の妻、安子

大正5年(1916)2月8日安子は、死を覚悟し遺書として武郎宛に長文の手記を書く。また、このころから古賀博士の注射液の効果がおもわしくなく3月17日、17回目を以って中止する。そして、安子の希望により5月3日に杏雲堂病院の近くの借家に転居すると同時に、オキシ・ヒーラー(Oxi-healer 酸素療器)という装置を借用して安子に試みる。しかし病状は、だんだんと悪化の一途をたどり、6月7日にコップ1杯の血を吐き、下旬になると右の肺だけでなく左の肺もかなりひどくやられていた。7月に入ると安子の容態はますます悪くなり、27日武郎が見舞いにいくと咳が大層ひどくなり呼吸も苦しくなるので、いつ呼吸が止まるのかと不安に思う。そしてついに、8月1日午後5時半に武郎が平塚に着くと安子の容態が激変し、医師は警戒を要すると言う。子供達には知らせず親族に急を知らせるが、翌2日午前8時永眠。享年27歳。臨終に居合わせたのは、武郎だけであった。この間武郎は、安子に毎日のように手紙を出したり、見舞いに行ったりして献身的看護を続け「不如帰式の親切」と評された。3日夜平塚で火葬とする。4日9時半頃火葬場へ行き遺骨を集め、11時の汽車に乗り午後1時頃東京の自宅に着く。7日青山斎場にて葬式。宮部金吾博士(武郎の札幌農学校時代の恩師。植物学者)の司式。田島牧師が説教し、柳夫人(柳宗悦夫人兼子。白樺同人で声楽家)が「アヴェ・マリア」と賛美歌を歌う。10時頃埋葬を含めてすべてが終了。10日軽井沢の別荘・浄月庵にて安子の遺稿整理。9月23日安子の遺稿集(父が「松虫」と命名、題箋を「松むし」と揮毫)が軽井沢に届く。印刷部数400部。親戚知人に配る。11月8日父が、胃癌にかかっていることを医師に告げられて驚愕。26日父が危篤状態となる。12月4日父・武、永眠。享年74歳。特使をもって従三位に叙せられる。以上のように大正5年は、妻と父という最も身近な人を失い武郎にとって人生の一大転機となるが、これを乗り越えて本格的に作家活動への道を進むことになり、数多くの作品を世に出した。

大正6年(1917)8月2日安子一周忌、墓参。夕刻から平塚へ行き、杏雲堂病院の患者全員に花束を贈る。10月18日『有島武郎著作集 第一輯 死』(「お末の死」「死と其前後」「平凡人の手紙」収録)を刊行。初版1300冊が2日間で完売。12月2日青山墓地に安子を納骨し、『有島武郎著作集 第一輯 死』を納める。

大正11年(1922)7月18日、北海道狩太(現ニセコ町)にある有島農場内の弥照(イヤテル)神社に小作人一同を集めて、同農場を無償譲渡で解放することを宣言。

大正12年(1923)6月19日軽井沢の別荘・浄月庵にて波多野秋子(婦人公論記者)と縊死。7月7日別荘番が死体を発見。9日東京麹町の自宅で告別式を行い青山霊園に埋葬。その後府中市の都営多摩霊園に改葬。享年45歳。

有島武郎の数多い作品の中から、妻の病死を題材とした作品には次のようなものがあります。

#### 『松むし』

大正5年(1916)8月10日武郎は、軽井沢の別荘・浄月庵に行き安子の遺稿整理と編集に専念する。こうしてできあがった遺稿集は、父・武によって『松むし』と命名され、本(私家版)となったのは9月下旬であり、軽井沢の武郎のもとには、9月23日届いた。29日に親戚知人に配付。内容は、安子の武郎宛書簡1通の複製、「病床雑記」、短歌71首、遺書、武郎のはしがきと終焉略記、肉親縁者の追悼歌、写真三葉となっている。

#### 『死と其前後』

大正6年(1917)3月3日、妻の死を題材にした戯曲の執筆にとりかかり、できあがったのは

4月中旬であった。そして、5月1日発行の「新公論」(新公論社発行)第32巻第5号5月倍号の付録欄に発表。本号は5月5日に発禁処分を受けた。4日後に臨時倍号(第32巻第6号)が出されたが、何が発禁対象であったかは未詳。また、この作品は若干の加筆を経て『有島武郎著作集 第一輯 死』(大正6年10月18日新潮社発行)に収録された。

#### 『平凡人の手紙』

大正6年(1917)6月16日に脱稿し、7月1日発行の「新潮」(新潮社発行)第27巻第1号に発表。後に若干の字句を改めて『有島武郎著作集 第一輯 死』に収録された。この作品は、妻の一周忌の日に杏雲堂平塚分院の患者たちに花束を贈ることを思いたち同院を訪れ回想にふけり、さらに再婚せずにいる気持ちを手紙の形で表したものである。

#### 『小さき者へ』

大正6年(1917)12月8日午後から深更にかけて執筆・脱稿し、翌年1月1日発行の「新潮」第28巻第1号に発表した。後に「朝霧」と共に『白樺の森』(大正7年3月26日 新潮社発行)に入集され、さらに『有島武郎著作集 第七輯 小さき者へ』(大正7年11月9日 叢文閣)に収録された。小さき者とは、母のない三人の子供達、数えて8、7、6歳の行光、敏行、行三を指している。内容は、この三人がいずれもう少し大きくなったら読んで理解してくれることを予想して、亡き妻・安子の初産の時の様子、育児の苦勞、安子の罹病後の状況を回顧し、安子がいかに子供達を深く愛していたかを告白したものである。

最後に杏雲堂平塚分院について『杏雲堂病院百年史』(佐々木研究所 1983年刊)を参考に紹介します。

明治29年(1896)10月結核療養を目的に東京の杏雲堂病院の分院として、前東京帝国大学医学部教授の佐々木政吉により創立。政吉は、結核の療養には気候温暖な海浜地帯が最適であると考へ、湘南地方の大磯に目をつけたが、その後の調査で大磯より平塚海岸のほうが地下水が清冷で豊富であることにより、平塚の地に建設することを決定した。当時この地は、中郡須馬村であったが駅名が平塚であったため通常平塚海岸と呼ばれていた。後に須馬村は平塚町と合併し、さらに昭和7年(1932)4月1日市制が施行され平塚市となった。政吉が購入した敷地は海に面した小高い丘陵地1万数千坪(後に拡張して2万坪)で、周囲は松林に囲まれ駅から数町の道のりは、やはり松の並木のつづく砂地であった。病院は、丘陵の斜面を利用して本館、病棟、賄所、消毒所が配置され、最も小高い場所には院長宿舎、他に副院長、職員の宿舎が建てられた。病棟は1等から3等までの病室および特別病棟からなっていた。1等病室は8畳につぎの間つき、2等病室は8畳1間、3等病室は6畳で、いずれも個室であり特別病室は5戸ほど設けられたが、すべて一戸建て4室、台所、浴室付きで松林の中に分散して建てられた。政吉の院長時代は、約20年間にわたったが、その間に病院は発展の一途を辿り、敷地の拡張、病室の増築が相次いで行なわれた。患者は全国から集まり入院したくとも空病室のない者は、近くに民家などを借りて長期滞在して加療する者も現れた。こうした人々を目あてに、病院周辺には、貸別荘も建てられるようになり、設立当時は寒村であった須馬村のこの附近一帯は、病院を中心に発展していった。

(参考文献)

『有島武郎全集』第2巻		改造社	1931年
『有島武郎全集』第3巻		筑摩書房	1980年
『有島武郎全集』第7巻		筑摩書房	1980年
『有島武郎全集』第12巻		筑摩書房	1982年
『有島武郎全集』第13巻		筑摩書房	1984年
『有島武郎全集』別巻		筑摩書房	1988年
『有島武郎 悲劇の知識人』	安川 定男 / 著	新典社	1983年
『新潮日本文学アルバム』9		新潮社	1984年
『鑑賞日本現代文学』10		角川書店	1983年
『父有島武郎と私』	神尾 行三 / 著	右文書院	1997年
『杏雲堂病院百年史』		佐々木研究所	1983年

## 図書館の行事

## 全館共通

### 平和の本の展示

7月16日(水)～8月31日(日)

### 有島武郎展(巡回展)「小さき者へ」の世界

- ・中央館 5月30日(土)～6月29日(日)
- ・西図書館 7月 3日(木)～7月30日(水)
- ・南図書館 8月 2日(土)～8月31日(日)

## 中央館こども室

おはなし会 (毎週水曜日 午後3時30分～)

第1水曜はおはなし、第3水曜は絵本・紙芝居など、第2・4水曜は絵本、紙芝居、工作です。

7月30日は第5水曜日のため、おはなし会はおやすみです。

## 夏休み子ども人形劇お知らせ

### 中央館

- 1 演目 人形劇『しっぽをとられた狼』  
他  
    ペ - プサ - ト『金のがちょう』
- 2 演者 『劇団 たかつ人形座』
- 3 日時 平成 15 年 7 月 30 日(水)  
    午前の部 10時30分～  
    午後の部 2時30分～  
    (上演時間は約1時間)
- 4 会場 中央図書館 3階ホ - ル
- 5 申込み方法  
    整理券を当日、午前の部は10時10分より、  
    午後の部は2時10分より、中央図書館玄  
    関ホ - ルにて配布します。各回先着 130 名

### 北図書館

- 1 演目 人形劇『ピノッキオ』
- 2 演者 『劇団 小さいお城』
- 3 日時 平成 15 年 8 月 6 日(水)  
    午前の部 10時30分～  
    午後の部 2時～  
    (上演時間は約1時間)
- 4 会場 神田公民館集会室
- 5 申込み方法  
    整理券を8月5日(火)の午前9時より、北図  
    書館カウンタ - にて配布します。各回先着  
    130 名  
    入場は無料

### 西図書館

- 1 演目 人形劇『ヘンゼルとグレーテル』
- 2 演者 『劇団 オフィスやまいも』
- 3 日時 平成 15 年 8 月 20 日(水)  
    午前の部 11時～  
    午後の部 2時～  
    (上演時間は約1時間)
- 4 会場 西図書館視聴覚室
- 5 申込み方法  
    整理券を当日、午前の部は10時40分より、  
    午後の部は1時40分より、視聴覚室前に  
    て配布します。各回先着 120 名 入場は無

## お知らせ

**移動図書館 (あおぞら号) 時間変更!**

7月22日～8月29日は午前中のサービスに

いちにちとしょうかんにん

一日図書館員ぼしゅう!

もうしこみひと 平塚市内に住んでいる小学生, または平塚市内の小学校に通っている小学生  
 もうしこみ 申し込みところ 1日図書館員をやってみたい図書館のカウンター( 申込書を郵送してもいい

です)

もうしこみしよ 申込書 図書館と学校にあります

もうしこみきかん 申込み期間 6月19日(木)~6月24日(火) 必着

もうしこみ 申込みは、本人または保護者が申し込んでください

もうしこみ 申込みが定員を超えた場合、抽選となります

### 日程及びばしゅう人員

	1~2年生				3~4年生				5~6年生				合計
中央館	7/23 (水)	午前 9人	7/24 (木)	午前 9人	8/1 (金)	午前 9人	7/25 (金)	午前 12人		午後 12人	78人		
		午後 9人		午後 9人		午後 9人		午後 12人					
北館	7/24 (木)	午前 4人	/	/	7/25 (金)	午前 4人	7/29 (火)	午前 4人		午後 4人	24人		
		午後 4人				午後 4人		午後 4人					
西館	7/24 (木)	午前 9人	/	/	7/29 (火)	午前 9人	7/30 (水)	午前 12人		午後 12人	60人		
		午後 9人				午後 9人		午後 12人					
南館	7/24 (水)	午前 12人	/	/	7/29 (火)	午前 9人	7/30 (水)	午前 12人		午後 12人	66人		
		午後 12人				午後 9人		午後 12人					

時間 午前9:00~12:00 午後13:00~16:00

その他、お問い合わせは各図書館へお願いします。

中央館 (31) 0415 北図書館 (53) 1232 西図書館 (36) 3555 南図書館 (33) 3080

### 図書館に関する統計

#### 利用統計

個人貸出状況 (平成14年度4月~平成15年3月)

区分	中央	北	西	南	BM	合計
入館者数	402,610	145,150	183,967	170,958		902,685
貸出点数	581,584	236,351	343,168	359,645	34,358	1,555,106
登録者数	66,653	13,310	18,760	12,427	7,205	118,355

#### 資料統計

蔵書数 (平成15年3月末現在)

区分	中央	北	西	南	BM	合計
図書	326,587	99,809	135,556	115,246	43,049	720,247
うち児童書	63,950	40,635	60,853	41,870	18,605	225,913

視聴覚資料 (平成15年3月末現在)

16ミリ映画フィルム	623	ビデオ	20,393
CD	20,886	LD	1,605

たくさんのご利用ありがとうございました。